

学校所有パソコンの利用状況

[市販ソフトウェア利用の全体状況]

ワープロ	55.6%
成績処理	30.6%
統計処理	27.8%
データベース	19.4%
学習指導	36.1%
その他	19.4%

[授業の利用状況]

ドリル学習	68.7%	学習 コースウェア	12.5%	その他	18.8%
-------	-------	--------------	-------	-----	-------

個人所有パソコンの利用状況

[利用の全体状況]

ワープロ	36.9%	成績処理	25.3%	統計処理	17.2%	データベース	8.9%	学習指導	6.4%	その他	5.3%
------	-------	------	-------	------	-------	--------	------	------	------	-----	------

[学習指導の利用]

ドリル学習	61.4%	学習 コースウェア	15.8%	その他	22.8%
-------	-------	--------------	-------	-----	-------

■授業の利用形態

学校所有		個人所有	
一斉指導	18.8%	51.9%	一斉指導
グループ学習	12.5%	40.4%	グループ学習
個別学習	56.3%	51.9%	個別学習

■ソフト開発の場

学校で	35.5%
自宅で	86.8%
その他	3.9%

■パソコンの校内研修

・研修有……24.7% ・研修無……46.9% ・計画中……28.4%

※本稿で使用した県下小・中学校の導入・利用状況は、教育庁義務教育課の調査結果を借用しました。
※高等学校や当教育センターのマイクロナンピュータを利用した情報処理教育については、本誌「教育福島」'86年11月号の40・41ページを参照して下さい。

三、県下小・中学校におけるコンピュータ利用の状況

学校所有のパソコンは、ワープロとして利用されることが多く、ソフトウェアも用意されています。成績処理、

(二十四・五パーセント)を超え、女子教員の所有は千台(十七・〇パーセント)を超えています。
ワープロの学校所有と個人所有を合わせ、パソコンのワープロ利用も含めると、実質的には、ほとんどの県下小・中学校に導入されていることとなります。

統計処理、データベース等、CMIとしてのソフトウェアも多くはありますが、ドリル学習に利用されることが多く、学習指示、課題解決、情報提示等のコースウェア学習に利用されることは、さほど多くはありません。
個人所有のパソコンは、ワープロとしても利用されていますが、CMI・CAIとして、むしろ積極的に活用されています。しかし、学習指導の中では、同じようにドリル学習に利用されることが多くなっています。
学校所有のパソコンも、個人所有のパソコンも、個別学習に重点をおいて

四、「学習内容」・「学習方法」と

活用されています。
ソフトの開発は、ほとんどが自宅で行われています。
今回の調査結果を見ますと、パソコンの多様で高度な活用については、今後課題が残されています。しかし、そのための校内研修は、まだ十分に行われていません。
全体としては、経済的にも労力的にも大きな負担を負いながら、児童・生徒一人一人の充実に願って、懸命に未来への道を模索しているように思われます。

としてのコンピュータ

コンピュータが社会のシステムの中で機能するようになると、「道具」としての知識や使い方が、日常生活の常識の一部になると思われます。
また、コンピュータを利用して、記録整理、成績処理、文書作成等々の情報処理をしたり、学習指示、情報提示、課題提示、情報検索、学習定着等の授業展開をしたりすることが、教育活動の一部に加わるようになっていられると思われま

五、おわりに

コンピュータの学校教育利用の有効性と限界については、必ずしも明確になつてはおりません。人間がいてコンピュータがある、教育があつてコンピュータがあるということだけは確かです。